

社団法人関西経済同友会「水都・大阪」推進委員会（第2分科会） 提言要旨

1. 当委員会の基本認識

「水都・大阪」の復活は、「水辺の景観や文化、歴史」を活かした街づくりを行い、“大阪固有の美しさ、楽しさ、そして誇り”を取り戻すことから始まる。都心の豊かな河川空間を持つ特性を生かし、集客都市につなげたい。

2. 「水都・大阪」再生への動き

(1) 「水都・大阪」の復活は八軒家浜より

本委員会の提言がきっかけとなり八軒家浜が整備されつつある。数年先には近世の風情を取り戻し、船着場、親水護岸、桜の植え込み、“八軒家浜賑わい施設（仮称）”ができ、中之島公園剣先への回遊性のある浜となる。近世まで盛んに利用された水陸両用ターミナルが復元し、伏見、枚方からの三十石船と中之島西部の舟運ルートの拠点になるとともに、上町台地への陸路のルートの発達を期待したい。

しかし、イベント、観光ともに舟運が活発になる中、八軒家下流の橋は低く舟の自由な通行の妨げとなっている。橋桁の嵩上げを強く主張したい。

このほか、中之島四丁目の船入遺構の復元、市立近代美術館等の整備加速、中之島五丁目の面的開発により、集客力のある中之島西部の核をつくることが必要だ。不夜城の賑わいを創り出すため水辺の遊歩道、集客が期待される施設の整備等の試みも欠かせない。

(2) 御堂筋の国際ストリート化、水の環境側面からの取り組み

大阪の都心部において、自動車の利用を抑制し、公共交通機関の利用へ市民を誘導することは、環境問題からも現下の最重要課題の1つである。人口の都心回帰の中、自転車の利用が益々増えていくであろうが、マナーの改善、駐輪場の整備を図り、美しい御堂筋に相応しい条件を整える必要がある。啓発活動を含む幅広い施策によって御堂筋を中心に美しい大阪都心を創り出したい。

水質改善も、大阪を美しい水の街にする第一歩である。淀川水系の水質改善は効果が見られるものの、寝屋川水系については今後も関係者の取り組みが継続されることが望まれる。大阪の街に清流を取り戻し、単にヒートアイランド対策のみならず、市民が水に親しみ、誇りの持てる「水都・大阪」を実現するためには水質浄化が必須であり、今後も新しい技術、新しい発想を採り入れた方策（“水の路”等）を大胆に進める必要がある。

3. 「水都・大阪」の50歩先を見据えたビジョン

(1) 3つの戦略により「水都・大阪」を復活する

- ①少し広域（“拡大口の字エリア”）で捉え、長いタイムスパンで透視する。
- ②「水」に拘り水都の魅力を磨く。“水の路”を実現する。
- ③3本の都市の縦軸、2本の水の横軸を強化する。

（2）「水都・大阪」復活の具体策

①環境都市創造

——都心に清流を復活し、交通ゼロエミッション都市を目指す——

水都の特性を生かしつつ、都市の環境問題に対し、世界に先駆けた解決策に取り組む。都心部の交通負荷軽減のため、外側の環状道路等を早期に完成させる。鉄道を軸とした公共交通機関へのモーダルシフトを進めるとともに、都心部については電気自動車または燃料電池自動車で補完しつつ、鉄道、自転車、歩行を主としたゼロエミッションの交通・輸送を備えた環境都心を世界に先駆け創出する。

5本の都市軸に“水の路”をつくり、憩い空間の創出、ヒートアイランド対策とする。水都の都心部水路を覆い、景観を損なっている高速道路の移設等を検討する。

ヒートアイランド、都市景観等の問題を総合的に解決した環境都市の創造を目指す。

具体策、理由等は以下の通り。

- i. 高速道路の移設等による景観改善を図る。
- ii. 高速道路の耐用年数を考慮し社会のコンセンサスを得る。
- iii. 都市の環境問題に対処する。
- iv. 公共交通機関へのモーダルシフトを進める。
- v. “大都市での交通ゼロエミッションは世界初”。
- vi. クリーン自動車は技術開発のチャンス、石油資源の節約。
- vii. ヒートアイランド対策と街の憩いを“水の路”によりつくる。
御堂筋等大阪市中心部の幅の広い主な道路に清流（“水の路”）をつくる。
- viii. 従来の課題である河川の水質浄化を一層進める。

②都心軸の多様化・多層化

③舟運活性化

参考

- 資料1. 八軒家浜第1期イメージ
- 資料2. 口の字回廊と活性化の取り組み
- 資料3. 拡大口の字回廊と都市軸のイメージ
- 資料4. 景観シミュレーション（現況、高速道路移設後）
- 資料5. 「水の路づくり」計画について